

ペリー来航と幕末の動乱

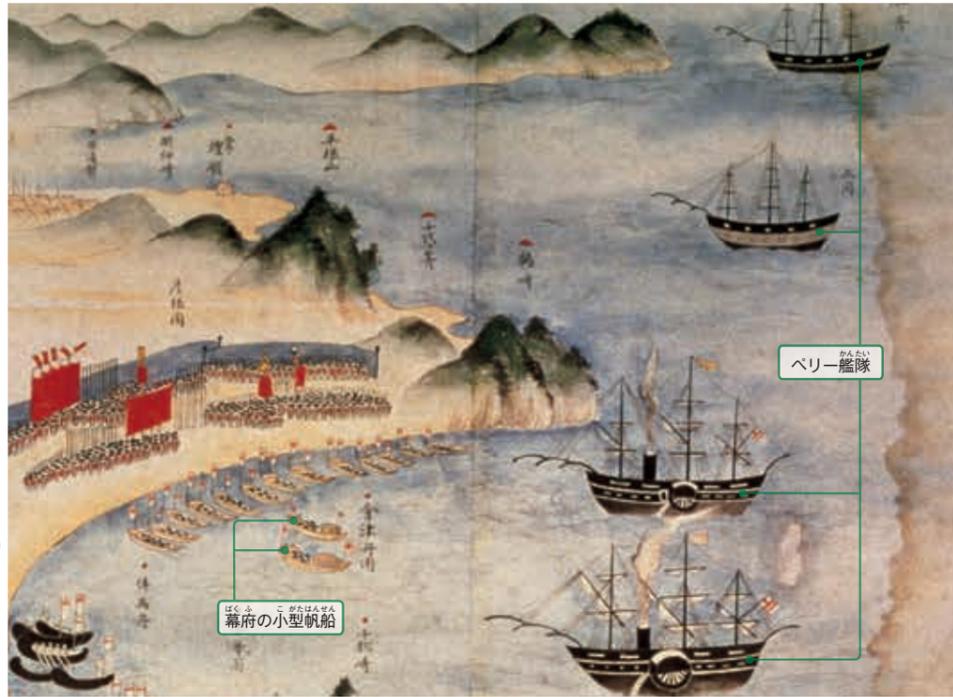
1853(嘉永6)年、ペリー率いるアメリカの軍艦4隻が浦賀(神奈川県)に来航し、日本に開国を求めた。これをきっかけにして、世のなかには開国派と開国反対派のあいだでゆれ動き、乱れていった。

みんな、はじめて見る大きさの軍艦におどろいたの!



<鎖国をやめて開国へ>

1853年、浦賀に来航したペリーは、幕府に開国を求める手紙を渡した。そして、返事を翌年に約束させると、艦隊を率いて去っていった。1854(安政元)年、予告通り再びやってきたペリー艦隊は7隻に増えていて、アメリカの軍力におそれなした幕府は、ついに開国へとふみきった。200年以上も続いた鎖国政策はこのとき終わりをむかえた。



ペリー艦隊

幕府の小型帆船

久里浜(神奈川県)に上陸したペリー艦隊。1853年に来航したペリー艦隊は4隻で、はじめ浦賀にやってきた。幕府は軍艦を江戸から遠ざけようと、浦賀から離れた久里浜に誘導して上陸させた。幕府も大砲を積んだ小型帆船をもっていたが、その大きさは、アメリカの軍艦とは比べものにならないほど小さかった。

開港・開市のはじまり

1854年、開国へとふみきった幕府は日米和親条約を結ぶ。その内容は、下田(静岡県)と箱館(現・北海道函館)の2港を開き、アメリカの船に食料や水、燃料などを提供することなどだった。それから4年後の1858(安政5)年には、日米修好通商条約が結ばれ、これにより外国との貿易のための5港の開港と、市場をアメリカに解放する開市がはじまった。日米修好通商条約には開港・開市のほか、領事裁判権や日本が自分たちで関税率を決められないなどの、日本にとって不利な内容もふくまれていた。



横浜(神奈川県)の応接所に入るペリー一行

1854年に再び来航したペリーがやってきたのは浦賀よりも、さらに江戸に近い横浜だった。上の絵はアメリカ人によってえがかれた、当時のようす。

日米修好通商条約は不平等な条約だったんだね。



より深い条約へ

1854年に結ばれた日米和親条約には貿易に関する内容はふくまれていなかった。1856(安政3)年、日本との貿易を望むアメリカの命令で下田にやってきたハリスは、通商条約を結ぶよう幕府に強く求めた。ハリスはアメリカの軍力を背景に、貿易がさげられないことだと幕府にせまり、日米修好通商条約を結ぶことに成功した。



タウンゼント・ハリス(1804~1878) アメリカの外交官で、初代駐日総領事。

苦しむ民衆

1859(安政6)年、日本と外国との貿易がはじまると、たくさんの生糸や茶が外国へ輸出された。そのため、国内で使う商品が少なくなり、物価が上がった。民衆の生活は苦しいものとなり、世のなかには混乱していた。

●打ちこわし

国内の物価が上がると商品の買いしめがはじまった。商人の買いしめは物価を上げる原因となり、民衆のいかりは増大した。そのため、米を高く売る間屋や商家への打ちこわしがひんばんに起こった。



上の絵は、堀留町一丁目の小林吟次郎商店でのようすを表したものだ。

天皇中心の明治政府が誕生する

1867(慶応3)年10月、徳川慶喜は政権を朝廷に返上する「大政奉還」を行った。そしてその年の12月、「王政復古の大号令」が朝廷から発せられ、天皇を中心とする新しい明治政府が誕生した。号令の内容は、幕府の廃止のほか、近代化を目指す文明開化政策など、日本の文明国へのかま入りを目標にした政策もふくまれていた。

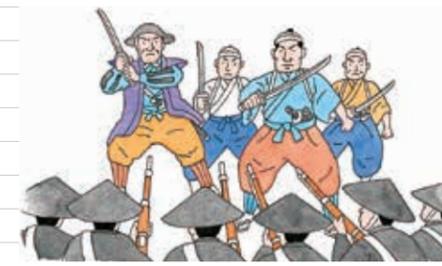
京橋を渡る明治天皇の一行

明治天皇は住まいを京都から東京に移した。これを機会に、江戸が東京に改められた。



どうして明治政府が誕生したの?

開国後、幕府に反対する尊皇攘夷運動がさかんになり、幕府を倒して新しい住みよい世のなかをつくらうとする倒幕の動きが生まれた。

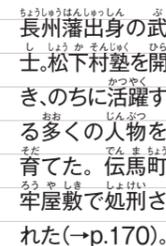


戊辰戦争と江戸幕府の終わり

新政府軍と旧幕府軍とのあいだではじまった戊辰戦争は1869(明治2)年、旧幕府軍の降伏によって終わりをむかえた。新政府軍の最新式の兵器を前に、古い装備の旧幕府軍はたち打ちでできなかった。

幕末に活躍した人たち

新しい世のなかをつくる動きは、薩摩藩、長州藩を中心とした新政府軍と、それを拒む旧幕府軍とで激しさを増していた。幕末、多くの人物が活躍し、時代を動かしていた。



勝海舟

西郷隆盛

長州藩出身の武士。松下村塾を開き、のちに活躍する多くの人物を育てた。伝馬町牢屋敷で処刑された(→p.170)。

土佐藩(高知県)出身の志士。対立する薩摩藩と長州藩を説得して薩長同盟を結ばせたり、徳川慶喜に大政奉還を行うようすすめたりと、新しい政治のしくみを探していた人物。

江戸城の明け渡しは、薩摩藩出身の武士である西郷隆盛と、幕府の役人であった勝海舟との会談で決まった。これにより、江戸が戦いの場になるのを防いだ。